



積み木あそび

伊藤祐子 ◆ 首都大学東京

これまで、たくさんの子どもたちと出会い支援を行ってきました。子どもは作業療法の場面には必ずおもちゃがあります。また自身の子育てにおいても、多くのおもちゃが子どものあそびを豊かなものにしてくれたことが思い出されます。現在世の中にはたくさんのおもちゃがあります。しかし、なぜかいつも人気のおもちゃ、いつも使われ続けているおもちゃというのはいくつもあります。そこで今年度の掲載では、私がこれまで出会って印象に残っていて、今もなお手に取ることの多いおもちゃを順次取り上げ、紹介していきたいと考えています。四月号で取り上げた「おてだま」もその中の一つです。今回は、「積み木」おもちゃを取り上げたいと思います。

●積み木

積み木の特徴は、まず素材が「木」であることで、「木」という素材の持つ表面の少しザラツとした感触やすべすべした感触、木肌の温かみを感じることで、触は多少異なりますが、それぞれの感触を、自分で手に取り感じることで、手の触覚経験を増やし、手が素材を識別する力を養うことにつながります。まずは手に持つてみるところが積み木あそびのはじめの一步です。少し重みがあり、表面がツルツルしていないので滑りにくく、子どもの手にも持ちやすい特徴を備えているのも良い点だと思います。視覚的には、積み木の色、形から、多くの視覚的情報を得ることが出来ます。色のついた積み木では、色の名前の学習や、色を弁別する力も育ちます。また、積み木は立体的なので、見る角度によって、異なる形の面を見ることが出来ます。例えば、直



方体の積み木の場合は、上面・底面側から見ると正方形、側面を見ると長方形というように、立体の特徴を、手に持ちながら見ることが出来ます。このような経験は、視覚認知機能の発達にもつながっていくものと考えます。

また、積み木を両手に持つて打ち鳴らした時などに出る、木ならではの音の響きも聴覚的に捉えることが出来ます。自然な木の特徴を活かした積み木の場合は、さらに木の香りを感じることもできるでしょう。このように、感覚を通して、積み木の素材そのものの性質から得られる経験が積み重なるのも、子どもにとっての大切なあそびの一つです。そして、次のあそびのステップとして、積み上げる背景として、座位あるいは立位が安定している両手が自由になることが必要です。もし、姿勢が不安定な椅子があれば、背もたれや肘掛の付いた椅子や、おなかの部分がくりぬかれた形のカットアウトテーブルなどを使うと、姿勢が安定して手が使いやすくなります。土台の積み木の上にも、もう一つの積み木を重ねるときには、その場所を良く見て、積み木をもった手をその場所に移動させますので、目と手の協調性が求められ、試行錯誤を繰り返しながら、より精密な目と手の協調性を発達させる機会になります。しかし、積み木作業は、目と手の協調性に加え、手で



積み木の重さを感じながら、手の動きや力の入り具合を適度になめらかに調節することも必要ですので、はじめはうまく行かないものです。そして、あそびは子どもの、自分からやりたいと思う気持ちに伴ってこそ「あそび」になるのですから、積み練習にはしないでください。むしろ、はじめは、大人が積んだ積み木を壊すことが面白いことが多いので、積まれた積み木を「えいっ」と倒すことからあそびはじめてみましょう。倒す時にも、手をちょうど良い距離の所に持つていくよう、目で見ながら、肩や肘や手首が協同作業を行って、成功に導きます。子どもは、倒れる積み木を見ることで、どきどきワクワク、びっくりといったさまざまな情動を経験するとともに、ものが崩れ落ちることを通して、重力について無意識に学ぶ機会にもなると思います。倒すことが上手にできるようになったら、積んでみましょう。積んでいるときには、崩れないように注意を集中し、良く見て、手を動かしますので、繰り返しの中で、手の運動コントロールの発達が促されます。まずは二、三個の積み木を積みむところから良いのです。子どもがこの世界に生まれてから、積み木を積みむという精巧な作業ができるようになるのは、とてもすごいことです。たくさん賞賛して、一緒に喜ぶ場面にしましょう。そして、子どものチャレンジを応援



しましよう。たくさん積むには、より繊細に感覚を用い運動をコントロールする力や、利き手ではないほうの手で、土台を支えながら積むという、身体の左右の役割分担が必要になります。もちろんその先には、お城やタワーなど子どもの興味にあったものを造形するのも楽しいですね。作品を写真に撮って保存しておく、後から見た時に懐かしさとともに、子どもの成長を感じる機会にもなりますね。加えておまけのようですが、積み木あそびでは、お片付けがまた素晴らしい機会です。箱に収納するには、まるでパズルのように心の中で立体を回転させ、試行錯誤し、積み木の向きを回転させることで、手の操作性も高まります。そしてびったりしまった時の達成感もわかりやすく経験できます。

さて、今回は積み木についていろいろお話いたしました。一般的に、積み木は積むことによって何か造形することが目的と思われるますが、実は子どもの成長・発達の段階に合わせて柔軟にあそび方を変えることができ、またそれぞれのあそび方の中で、心と身体の多くの機能を発達させてくれるおもちゃです。そういう特性が、長きにわたりあそび継がれ、出番の多いおもちゃである所以ではないでしょうかと考えています。